食行動に関する文化心理学的研究(1)

高齢者による伝統的／現代的食行動の認知

○古満伊里¹・和田有史²・一言英文³・川端一光⁴・今田純雄¹

(¹広島修道大学健康科学部・²立命館大学理工学部・³福岡大学人文学部・⁴明治学院大学心理学部)

キーワード: 食行動, 伝統, 文化, 高齢者

Cultural Psychological Study on Eating Behavior (1)

Cognitive Framework for Traditional and Modern Eating Behavior in Japanese Elderlies

Isato FURUMITSU¹, Yuji WADA², Hidefumi HITOKOTO³, Ikko KAWAHASHI⁴ and Sumio IMADA¹,

(¹ Hiroshima Shudo Univ., ² Ritsumeikan Univ., ³ Fukuoka Univ., ⁴ Meiji Gakuin Univ.)

Key words: eating behavior・tradition・culture・elderlies

【目 的】

食は生物的存在としての人を支えるとともに、日々の楽しみ、喜びを与えてくれる。また食は、家族、友人、知人らとの社会的つながりを媒介する手段でもある。すなわち食は、人の生物学的、心理的、社会的存在としての3側面を有効かつ効果的なものとする役割を果たす。

しかしながら近年、食環境はおおきく変化し、摂取する食物の質、量のみならず、いつ、どこで、だれと、どのように食べるかという食行動の諸側面も大きく変化してきた(今田・和田, 2017; 今田, 2017)。本研究では、このような食の変化・変貌を、食認知の観点から検討し、食の現在を総合的に考察する。今回は、50歳以上の男女を対象に、食の伝統と食の現在に対する認知構造について検討した。

【方 法】

調査対象者: 50歳から65歳までの男女各50名(準高齢者群)、65歳から99歳までの男女各50名(高齢者群)の計200名を対象とした。なお全員が「現在のご住居での居住年数」を18年以上であると回答した者であった。

質問項目および手続き: TradEAT(Sprosser et al., 2015)を元に45項目を作成し、それぞれの項目に対して7件法(1:かなり伝統的, 2:伝統的, 3:やや伝統的, 4:どちらでもない, 5:やや現代的, 6:現代的, 7:かなり現代的)で回答させた。調査は民間調査会社に委託しおこなった。なお調査会社が有する登録者数は男性50歳以上で228,831、女性50歳以上で114,737であり、調査協力の依頼メール送信数は男性10,545、女性11,481であった。調査はスクリーニング画面で年齢、性、居住年数を入力し、居住年数が18年以上の者のみが調査ページへ移行し回答するという手続きをとった。

分析: 45項目のそれぞれについて、男女別、群別および全体について得点分布を検討したところ、大きく問題となる特徴はみられなかった。また男女間、群間で顕著な差が見られた項目もなかった。よって全項目を対象に、その因子構造を検討することとした。分析には、統計パッケージ SAS ver9.3を使用した。

【結果と考察】

全参加者200名を対象に、45項目に対する評価得点の因子構造を検討したところ、5因子構造をもつことがわかった。1項目がいずれの因子にも負荷量が低く(<.26, 平均得点4.0)、さらに第5因子を構成する3項目が「伝統」・「現代」のいずれをも特徴づけるものとはみなされなかったので(3項目の平均得点4.0)、これら4項目を除き、因子数を4として因子解(promax回転)を求めた。その結果を表に示す。

第1因子は、現代の食行動を特徴づけており、第2因子は伝統的な食行動を特徴づけていた。また第3因子は現代の食事内容(食品)を特徴づけており、第4因子は伝統的な食事内容(食品)を特徴づけていた。よって、第1因子以降「現

代的な食行動」「伝統的な食行動」「現代の食事内容」「伝統的な食事内容」と命名した。今後は、他の年代層との比較、他国との比較をおこない、食の現在と伝統に関する認知の違いを検討していきたい。

Table 1 高齢者による食行動の認知的枠組み

項目	F1	F2	F3	F4	共通性	平均値
カロリーや栄養のことを考えながら食べる	.80	-.06	-.05	.15	.67	5.1
食物をどこでも買うことができる	.79	-.07	.04	-.06	.63	5.6
栄養バランスを考えながら食べる	.78	.09	-.08	.21	.67	4.9
食材の多くはお金を払って購入される	.75	.00	-.07	-.03	.58	5.0
何を食べてよいかといつも迷う	.75	.11	-.08	-.01	.58	4.8
食事の質を重視する	.73	.24	-.17	.19	.66	4.6
ポテトチップスや調理済み食品など、工場で高度に加工された食物を食べる	.70	-.11	.22	-.02	.56	5.6
食べ歩きを楽しむ	.69	-.18	.12	.01	.52	5.5
食べながら、携帯電話(スマートフォン)を操作したり、ウェブや新聞を閲覧することが多い	.68	-.12	.21	-.01	.53	6.0
頻繁に外食する	.65	-.21	.05	-.02	.47	5.4
ごく最近になって食べられるようになった食物を食べる	.62	-.12	.23	-.02	.46	5.7
幅広くいろいろなものを食べる	.60	-.05	.14	.12	.40	5.1
好きな物を好きなだけ食べるといった自分本位の食事をすることが多い	.53	.10	.07	-.22	.35	4.8
一人で食べる	.53	.25	.03	-.36	.47	4.7
生野菜(特に、葉物野菜)を食べる	.53	.26	-.12	.30	.45	4.2
食事時間が10分以内であることが多い	.52	.25	.07	-.33	.44	4.8
自分が所属する集団(家族や地域、社会など)には食事に関するルールというものがほとんどないので、皆それぞれが好きな物を好き勝手に食べている	.49	-.15	.00	-.03	.26	4.8
頻繁に間食する	.49	.05	.16	-.15	.29	4.9
大量生産された食物を食べる	.47	-.10	.34	.03	.36	5.4
世界中から輸入されてきた食物を食べる	.44	-.17	.32	-.02	.33	5.4
自宅で食べる	-.09	.69	.05	.09	.50	3.0
旬(季節)の野菜や果物を食べる	.30	.68	-.15	.10	.58	3.4
地元で生産された食物を食べる	.02	.66	-.05	.16	.47	3.3
地元で長年にわたって食べ続けられてきた食物を食べる	-.27	.63	.00	.11	.47	2.7
朝、昼、晩の決まった時刻に食事をする	.02	.58	.01	.12	.35	3.0
自分が所属する集団(家族や地域、社会など)が決めている食事のルールには厳格に従う	-.19	.58	.06	-.08	.38	3.2
新鮮な肉や果物など、あまり加工されていない食物を食べる	.00	.55	.28	.00	.38	3.9
塩分を摂取する	-.26	.54	.24	-.02	.42	3.5
食物をどこで入手するか、どれだけの量を手でできるかということがいつも気になる	.13	.50	.00	-.24	.33	4.0
調理に時間をかける	.08	.47	.18	.05	.26	3.9
油脂類を摂取する	-.09	.17	.79	.03	.66	4.7
砂糖や高カロリーの甘味料を摂取する	.15	.06	.72	.00	.55	5.0
動物の脂身や乳製品などに多く含まれる飽和脂肪を摂取する	.09	.09	.65	.01	.44	5.1
ソフトドリンクを飲む	.30	-.06	.61	-.02	.47	5.4
肉を食べる	-.02	.02	.60	.41	.53	4.4
ハムやソーセージなどの肉製品を食べる	.30	-.05	.59	.16	.46	5.1
高カロリーの食品を食べる	.25	.30	.53	-.12	.44	4.9
野菜を食べる	-.13	.09	.06	.81	.69	3.3
果物(くだもの)を食べる	-.03	.00	.20	.71	.54	3.8
食物繊維を摂取する	.11	.03	.04	.70	.51	3.8
穀物を食べる	-.10	.19	-.10	.53	.33	2.8

文献

今田純雄・和田有史(2017). 食行動の科学:「食べる」を読み解く 朝倉書店

今田純雄(2017). 飽食環境の大学生たち 外山他(編)若者たちの食卓:自己、家族、そして社会 ナカニシヤ出版

謝辞: 本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金(16KTT0097)による研究成果の一部である。